講座 20	川崎地域の文化財を考える（前近代編）			
	【定員】70名 【受講料】2年会員 13,430円 1年会員 15,110円 聴講生 20,130円（野外学習安全費用50円を含みます。）			
	【川崎学】歴史（川崎学）講座		【時間】毎回10時30分～12時00分（計12回）	
概要	私たちのたどってきた歴史の道の手しるしものが文化財です。有形・無形さまざまですが、それがいかに伝えられ、保存されてきたのか。危機に瀕したものもあり、また消滅したものもあるでしょう。それら文化財に視点をあてつつ、私たちのこれまでとこれからを考えを廻らしてみましよう。			
回	月/日(曜)	会場	学習内容	講師名(敬称略)
1	10/11(土)	川崎市 生涯学習 プラザ	川崎文化財の総説 川崎の文化財について鳥瞰的・歴史的な視点で検討し、保護・活用のこれからを考えてみましょう	シルク博物館 館長 高橋 典子
2	10/18(土)		国宝秋草文壺の出土と渥美窯の世界 知られざる壺発見の逸話と、経筒など中世渥美窯製品の多彩な利用について解説します	元横浜市埋蔵文化センター調査研究員 坂本 彰
3	10/25(土)		県指定史跡東高根の森から見た川崎の弥生時代 東高根の森と谷戸地形から、最初に水稲耕作が営まれた理由を考えます	法政大学第二中・高等学校教育友会 教育研究所前所長 大庭 乾一
4	11/15(土)		県指定史跡馬絹・西福寺古墳から見た川崎の古代 両古墳にみる高い技術を検証することで、その史跡として価値を考えます	都筑・橋樹研究会共同代表 小股 昭
5	11/22(土)		古代・中世の多摩川右岸沖積地と前二ヶ領用水 古代条里・稲毛荘の水田は、どのように灌漑されていたのか探ってみます	國學院大學栃木短期大学教授 菱沼 一憲
6	12/6(土)		中原区常楽寺十二神将像と地域社会 同像修理の胎内銘札から、同寺への周辺地域の信仰の心と結びつきを読み解きます	元宮内郷土史フォーラム、郷土史家 野口 英雄
7	12/13(土)		川崎市に残る戦国大名の文書―北条家の虎の朱印状― 北条家朱印状の様式の違いと多摩川洪水など内容を解説します	元横浜商科大学講師 伊藤 拓也
8	12/20(土)		忘れられた文化財―カ石と力持ち芸人の見世物世界― 寺社境内にたたずむカ石から庶民に身近な芸能娯楽を探ります	都筑・橋樹研究会共同代表 相澤 雅雄
9	1/10(土)	野外学習	川崎市公文書館における公文書の保管と活用 私たちの公文書はいかに収集・保管・利用されているのでしょうか	川崎市公文書館
10	1/24(土)	川崎市 生涯学習プラザ	文化財建造物保存活用の歴史と展望 川崎市立日本民家園など重要文化財建造物の保存活用と今後の展望について考えます	公益財団法人三溪園保勝会 原 未織
11	1/31(土)	野外学習	池上新田を歩く 18世紀後半に開発された海中新田の跡地と周辺をめぐります	神奈川県立博物館館長 望月 一樹
12	2/7(土)	川崎市 生涯学習プラザ	歴史的公文書から辿る川崎市の誕生 川崎市公文書館の「歴史的公文書」から川崎市への道の手しるしを辿ります	元川崎市公文書館職員 下田 悠真
連絡 事項	初回(10/11)はコーディネーターの先生の話と事務連絡があります。10時00分までにお集まりください。			